

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 01 02	中期総合計画主要施策番号		3-02	担当課	部・課	衛生部 医療政策課	
事業名		がん診療連携拠点病院整備事業					内線	2619	
							E-mail	iryu@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	地域におけるがん診療連携が円滑に実施され、質の高いがん医療の提供体制が確立されることを目指し、がん診療連携拠点病院を原則2次医療圏ごと1病院整備する。							
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 県内3医療圏において、がん診療連携拠点病院が未整備となっている。 既に指定を受けた病院でも、より質の高い医療提供体制の整備を図る必要がある。							
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 3医療圏における候補病院では、国の指定要件を満たすだけの条件整備がなされていない。 指定を受けた病院では、研修制度の充実や地域連携などの体制整備を図る必要がある。							
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 3医療圏におけるがん診療連携拠点病院を整備する必要がある。 指定を受けた病院での緩和ケアの充実、医療従事者を対象とした研修の実施などを図る必要がある。							
	事業内容	・がん診療連携拠点病院整備検討委員会を開催し、がん診療連携拠点病院の指定推薦について審議する。 ・がん診療連携拠点病院が実施する医療従事者研修、相談業務、院内がん登録等について補助する。 (補助率10/10【国】1/2、【県】1/2(上限H20:13,000千円)) 信州大学医学部附属病院は国が直接補助							
実施期間	H18 ~		根拠法令等	がん診療連携拠点病院の整備に関する指針、がん診療連携拠点病院機能強化事業					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	地域におけるがん診療連携が円滑に実施され、質の高いがん医療の提供体制が確立されることを目指し、がん診療連携拠点病院を原則2次医療圏ごと1病院整備する(H24までに11病院)。		がん診療連携拠点病院を、2次医療圏に概ね1箇所程度整備する。			・それまで未整備な地域であった上伊那地域において、新たに伊那中央病院を整備し、H24の目標達成に向けて期待どおりの成果が得られた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	45,000	78,000	112,000	国庫・県単 国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	45,000	78,000		実施方法 補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	22,500	39,000	56,000	歳出節別 補助金:78,000		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.60	0.50	0.50	内訳等		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	49,284	81,575	115,575	(単位: 千円)		
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	指定病院数(累計)		病院	1(7)	1(8)	1(9)			
	医療従事者研修		回	20	45	45			
	相談業務		件	1379	3456	3400			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	がん対策基本法の成立(H18.6)や、がん対策情報センターが設置されるなど、がん対策への取組は全国的に進んでいる。 また、本県では2次医療圏で拠点病院が整備されていない地域があることから、早急な整備が必要である。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括		がん診療連携拠点病院の指定を受けていない2次医療圏がある上に、指定を受けた病院でも、医療従事者の育成や緩和ケアの提供体制、地域連携の整備など、さらに質の高い医療提供体制を整備していくことが必要である。						